

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0193000064), 法人名 (株式会社e-ケア), 事業所名 (グループホーム あんしん・ふらの), 所在地 (富良野市末広町6番22号), 自己評価作成日 (令和6年2月1日), 評価結果市町村受理日 (令和6年4月17日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

かわむら整形外科が併設されており、24時間医師、看護師へのアクセスが可能である。また、リハビリテーションにおいては、介護職員による作業療法のほか、専門的な理学療法の実施や言語聴覚士への嚙下相談など医学的ケアが充実している。そのほか、看取りや特浴の実施など医療介護ニーズへの対応はハイレベルである。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193000064-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和6年2月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市中心部を走る幹線道路付近に位置し、大型スーパー、富良野マルシェ等の商業施設に最寄りの生活に至便な立地である。母体である医療法人が占有する鉄筋3階建の2階部分に2ユニットが入り、3階にはサ高住、1階と2階に病院、保育所が開設されている。運営法人は、市内において長年介護事業を担ってきたことから、介護の実体と現状を熟知しており、地域に根差した住民の信頼に資する運営を実践している。医療面についても、併設の母体医療機関や法人内の看護師による24時間オンコール体制があり、終の棲家として暮らし続けられる環境にあり、事業所の共同生活の場としてのコロナ感染防止対策や、外出が難しい現状においての心身の機能維持に関する工夫、利用者本位に選択するケアを基本とした配慮ある支援が好評を得ている。現状でまだ自粛傾向にあるが、施設・地域行事や災害時の地域との相互の協力と参加があり、連携と役割を担っている。5類への緩和を機に、改めて地域との関係再構築に向け、取り組んでいる。成果に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を掲示し共有している。年1回理念研修を行っている。	法人理念の他、職員間で作成した事業所理念が定められており、管理者を中心に会議や研修の場で、理念に沿った考え方を共有出来ているか、確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を設け、町内会へ加入している。市内の代表的なお祭り(へそ祭り)に参加している。	春以降、地域活動は再開しつつあり、日常的な挨拶や市のボランティア受け入れ等、近隣住民との関係維持に努めている。	地域行事や災害時の地域との相互の協力と参加があり、連携と役割を担っている。5類への緩和を機に、地域との関係再構築に向け、取り組んでいる。成果に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知法サポートの象徴であるオレンジ色のTシャツを着て祭りに参加し、認知症理解ヘアピールを行った。また、地域の人々が安心して家族を預けられるよう、運営推進会議や通信の発行を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議を再開した。	運営推進会議は行政や包括、地域代表等の協力を得て、集合型で行われており、行事や研修、職員の動向等を報告して意見や検証を受け、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と密接に連携し協力関係を築いている。	市窓口からは、主に運営推進会議や電話で助言、指導を得ている。また、包括主催の研修・会議への参加や事業所の運営状況等の情報交換を行い、開かれた事業所作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会や虐待防止のための研修を実施しており、すべての職員がその内容を理解している。	法人として身体拘束適正化・虐待防止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と、不適正ケアの事例検討や予防方法等、研修を行いながら拘束虐待等はあってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止指針を整備し、委員会や研修会を開催している。また、年2回、虐待の芽チェックを実施し、問題のありそうなケースに関しては個別面談を実施して改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用している入居者がおり、関係者と連携できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や苦情、要望などを取り入れて、運営に役立っている。	現在は、主に面会来訪時に声掛けし、家族の意見、要望を聞き取り、運営に反映している。電話、ホーム便りや運営推進会議録の開示等、多様な情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面談を通じて、職員の意見を運営に役立っている。	会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。人事考課として職員満足度を図りながら、個別面談の機会を設け、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度等を評価し給与体系を反映させている。また、個別面談を通じて、各自の目標についてアドバイスしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	令和4年度は、管理者研修1名、実務者研修3名が受講し、介護福祉士には2名が合格した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内で合同研修会を頻繁に実施しているほか、各事業所の管理者クラスを集めた管理者研修会を実施した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを実施しており、ケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを実施しており、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅療養管理や外来リハビリテーションの実施などを必要に応じて実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な家事や行事などは可能な限り共に実施できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況報告を定期的実施し、本人と家族の関係性に貢献している。問題が起きた場合は家族と共に検討し、必要に応じて環境調整に協力していただくなどの方法をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やお手紙のやり取りなどを支援している。	希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。引き続き、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の大部分をリビングホールで共有している。各入居者によってさまざまだが、他の入居者や職員とのかかわりが形成できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に行っていない。必要な退去者はこれまでにいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんどが家族による代行となるが、本人の意向を推測するようアセスメントしている。	日々寄り添いながら支援しており、好き嫌い含めて思いの把握に努めている。困難な場合は、生活歴や家族からの聞き取りで、意向に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケア会議を実施し、ケアプラン作成、モニタリングを実施している。	職員によるモニタリングを日々のミーティング、ケア会議の場で検討し、本人、家族の希望を取り入れ、介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に即した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医学的ケアやリハビリテーション等、併設医療機関からの支援の下、個別ケアに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦ということもあり特に実施できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どちらかと言えば、かかりつけ医が併設医療機関であるため、当事業所を選ばれる方が多い。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、併設医療機関との協力体制があり、指示、助言を受けながら、職員は受診支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報共有ソフトを活用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関としての契約が結ばれている。そのほかの医療機関に対しては、併設医療機関の医師から紹介状が提出されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアに関する方針を説明し、同意を得ている。併設医療機関とチームへ支援している。	契約時に事業所の方針を説明し、状態変化に応じて協力医療機関、家族と終末期を支えるための話し合いを行っている。職員は定期的に意向を聞き取り、本人と家族の希望に寄り添うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを整備し指導済みである。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施し、BCPも策定済みである。	行政窓口、消防署の指導を得ながら、定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。BCPを策定し、併設の医療機関との連携や生活用水、食料の備蓄など災害時での必需品を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のニーズ、本人の生活歴をアセスメントし、ケアプランに沿った介護を心がけている。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保は、声掛けを基本として注意し、人格やプライバシーを損なわないよう職員が一丸となって取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケア会議によって、本人の気持ちをできる限り推測できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んだり、身だしなみを整える際に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なかなか個々の要望を聞くことはできないが、食事を楽しめるよう職員がメニューの説明等を行っている。	利用者の希望を取り入れ、季節感を大切にしたり、行事食やおやつ等、外食気分を味わえる工夫で、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューで食事しているほか、体重や水分量の管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを毎日実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存能力を把握し、排泄介助を行っている。また、排尿、排便の管理を行っている。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、水分摂取や運動を取り入れる等、自然な排泄となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況に応じた、水分の促しや服薬支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設のタイミングで入浴していただいている。	入浴日を決め、週2回以上入浴出来るよう取り組んでいる。拒否者には無理強いする事無く、時間や声掛け、湯温の好み等に工夫し、気持ちの良い入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息等は基本的に本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルやバイタルチェック等、併設医療機関と密に連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティーなど実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できていない。不要不急の外出を禁じている。	通例では季節のドライブの他、個別に声掛けして日課として出歩くように努め、季節を感じたり、敷地近隣の散策等、体調や天候を考慮しながら、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設側が行っている。本人の要望は聞いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物で季節感を感じられるよう工夫している。	リビングでは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気、音や光に配慮している。利用者と共に作成した季節を感じられる作品を掲示する等、温かみある雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して実施している。	家族の協力を得て、本人の日常に馴染みある備品や家具、家族写真等を飾り、居室には洗面台が備え付けられ、心身の状況に合わせた居心地の良い生活環境となるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境であるほか、カレンダーや時計などわかりやすい工夫している。		